

科目名	情報処理Ⅱ Information Processing Ⅱ			担当教員	小 島 隆 史		
学 年	3	学 期	通年	科目番号	09206	単位数	2
分 野	専門	授業形式	講義, 演習	履修条件	必履修		
学習目標	1. 2年「情報処理Ⅰ」に引き続きC言語の基礎を学び、工学的によく利用される簡単な数値計算手法をプログラミングすることができる。(前期) 2. 非線形方程式および連立1次方程式の数値計算法を理解してプログラミングし、その計算結果に対して論理的に考察することができる。(後期)						
進め方	CSセンターにおいて、各学習項目に関する基本事項を解説した後、コンピュータを用いたプログラミング演習を行う。プログラミング手法を身につけるため、自らの力で試行錯誤しながら演習を進めていってほしい。演習時間は十分確保するが、授業時間外の作業が必要になることもある。						
学習内容	学習項目(時間数)			合格判定水準			
	1. C言語プログラミング (1) C言語プログラミング基礎演習(6) ・情報処理Ⅰ復習 ・データの入出力 ・プログラミング演習			・ファイルへのデータ入出力を含んだ基本的なプログラミングができる。			
	(2) 文字列処理関数(6) ・文字列の取り扱い ・文字列処理関数のプログラミング演習			・文字列処理関数を含んだプログラミングができる。			
	(3) 標準ライブラリ関数(2) ・標準ライブラリ関数の種類と役割			・ヘッダファイルの役割を理解し、標準ライブラリ関数を用いたプログラミングができる。			
	[前期中間試験](2)						
	(4) ユーザー関数(10) ・ユーザー関数の使い方 ・ユーザー関数プログラミング演習			・ユーザー関数の取り扱いを理解し、ユーザー関数を含むプログラミングができる。			
	(5) ポインタ(4) ・ポインタを用いるプログラミング演習			・ポインタの基本的な使い方を把握し、ポインタを含むプログラミングができる。			
	前期末試験(2)						
	2. 数値計算法 (1) 精度と誤差(4)			・数値計算を行う上で考えなければならない誤差について説明できる。			
	(2) 非線形方程式の数値解法(10) ・2分法 ・直線近似法 ・ニュートン法			・2分法、直線近似法、ニュートン法の原理を理解し、それぞれの解法をプログラミングできる。			
	[後期中間試験](2)						
	(3) 連立1次方程式の数値解法(14) ・行列の取り扱い ・直接法による数値解法 (ガウスの消去法)			・ガウスの消去法を理解し、プログラミングすることができる。			
	後期末試験(2)						
評価方法	・演習報告書を30%、定期試験を70%として評価する。 ・学習項目ごとの全体評価への重みは、1(1)～(3)について25%、1(4)～(5)について25%、2(1)～(2)について25%、2(3)について25%とする。						
学習・教育目標との関係	全ての学習項目に対し ◎：(B) 知識						
関連科目	情報処理Ⅰ(2年) → 情報処理Ⅱ(3年) → 数値計算法(4年) → 計算力学(5年)						
教 材	教科書：林晴比古「新訂 新C言語入門 ビギナー編」ソフトバンク パブリッシング 参考書：林晴比古「新訂 新C言語入門 シニア編」ソフトバンク パブリッシング プリント(学習項目ごとに配布)						
備 考	受講要件：情報処理Ⅰを修得していることが望ましい。						